

一歩

言葉の力の弱さを克服しよう

先週の学年朝会で、本を読んで言葉の力を高めることをみなさんに勧めしました。

昔は勉強と言えば「読み」「書き」「そろばん」でした。3年生の授業や学校生活から、「読み」「書き」を注目してみると、言葉を知らない(語彙力)、漢字を書けない(漢字力)、文章を作れない(文章力)等、言語に関する力が不足していると感じます。昨年度までの図書館の貸し出し利用状況を見ても、本を借りて読書をしている生徒が少ない状況があります。家庭で過ごす時間など余暇の使い方として「本を読む」ことができると、一年後には言葉の力が今以上に上がると思うのですが・・・。

話す時に困らなければいいじゃないか、という考えもあります。日常生活では困り感がないのかもしれませんが、入試では弱点になります。

言葉の力が弱い生徒は、入試で問題文を読みこなして正しい回答をすることが難しくなります。もっと分かりやすく言えば、点数が取れないということです。5教科など教科の受験勉強や日頃の授業の復習は大切です。受験勉強などで問題の出題の仕方がわかり、点数のアップは可能ですが、学力を支える言葉の力を上げないと、それ以上の学力アップは難しいです。「英語の聞き取りテスト」は、以前からありましたが、今は「国語の聞き取りテスト」や「英語の話すテスト(18日の全国学力調査であります)」もおこなうようになったことから、「話す」力、「聞く」力という言葉の力を試されるようになっているのです。



一日や二日間だけ本を読んだり、一冊や二冊の本を読んでも変化はありません。自分が読める本でいいので、毎日10分でも20分でも少しずつ続けると、ある期間経ったとき、少しだけ知らなかった言葉が減り、少し語彙が増えます。もう少し読み続けると、もうちょっと語彙が増え、その後どんどん語彙が増えてきます。増え方は今の語彙力や読書する量、本の種類によって変わります。でも、最初はそれでいいのです。だんだん本を読むことが苦痛でなくなると、違う種類の本にも興味がわき、手に取り読むようになります。そうすると、あなたは言葉の力が相乗的に付くようになり、どんどん吸収できるようになります。

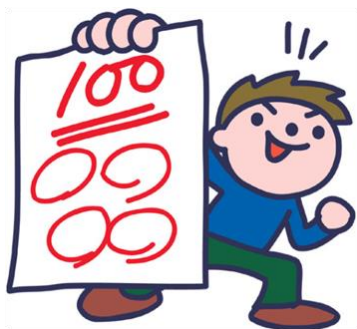
本などを読むようになると、中学校や高校を卒業した後も、本や新聞から多くの知識を得ることができ、見聞も広がります。本に興味を持ち、読む習慣があることは、一生涯自然とさまざまな知識を得ることにつながったり、新たに興味関心のあることに出会えるかもしれないのです。もしかしたら、一生の楽しみになるかもしれないものでもあるのです。

また、小説など読んでもみなさんのような若いときに読んだ本をオジサンくらいの年齢になってからまた読んでみると、感じ方や受け止め方が違う場合もあります。自分の立場やその時の気持ちなどで受け止め方は全然違うのも本を読む楽しみでもあります。



受験生 総合評価での成績

「総合の成績」と言っても『総合的な学習(総合学習)』のことではありません。



例として数学で考えてみます。5教科ではテストが大事と思い、高いテストの点数を取りたいとがんばります。しかし数学の教科の成績を出すとき、テストの点数がよいだけではよい成績はもらえないこともあります。ここで言う成績を「評定」と言うとわかりやすいかもしれません。

テストの点数がよければ、「知識・理解」は「A」とよい評価をもらえるでしょう。ですが、ワーク提出をしない未提出や、やるべき範囲すべてをやらずやり残しのある状態で提出すれば、「やる気がない」「勉強不足」と見ら

れ、「関心・意欲・態度」には「C」といった悪い評価をされます。このようにテストだけよい評価で、他の評価項目で足を引っ張るような悪い評価をもらえば総合的に見たら数学の評定はよくて3、悪いと2、もしかしたら1ということもありえます。教科の評定は、どの教科も「関心・意欲・態度」「知識・理解」「技能・表現」「見方・考え方」などの4項目があります。国語だけ「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語について知識・理解・技能」の5項目で評価され、評定が出されます。



毎日の家庭学習で『ワーク』を使って問題を解くことは、テスト時のワーク提出の準備にもなります。授業で学習し終えたところを家庭学習でワークを使った学習をしておく、日々の授業の復習ができ、ワーク提出でもあわてなくてよいという一石二鳥です。



音楽、美術、保健体育、技術家庭などの技能教科においても、運動だけががんばっていればよい評価とか、物を作るのが上手だからよい評価でないのは、5教科と同じです。

3年生の教科の評定が気になる生徒や保護者は多いでしょう。そして、今年度の評価・評定を1・2年時よりよくしたいと思うのが受験生の本音だと思います。

先週から教科の授業が始まりました。一日一日、一時間一時間の授業の取り組み姿勢や、提出物は必ず出す、小テストでもしっかり準備してよい得点を取るなどの積み重ねが、評価(A・B・C)をよくすることになり、その総合評価である評定(5・4・3・2・1)を上げることにもなります。一人ひとりががんばるとともに、学級や学年でも集団としてよりよくなるよう学年の全員でがんばりましょう。いい雰囲気学習すると、個人の学習効率や理解力も上がっていきます。

尿検査 絶対に忘れない

本日、明日提出する「尿検査」の容器とプリントを配付しました。よく読んでください。
(今日(15日・月)の夜)

★ビタミンCをたくさん含む飲み物を摂らない(例：生ジュース)。

★寝る前にトイレに行き、排尿する。

(明日(16日・火)の朝)

★出始めの尿を少し流してから、白いコップに尿を取る。

★プラスチック容器の線まで尿を入れる。

★検体入れ袋にプラスチック容器を入れ、のり付けをする。

★教室の回収用のビニール袋に入れ、名簿に○印をつける。

